

事業者名	京都市								
機器名	イオンクロマトグラフィーシステム								
機器写真									
特徴・用途	水溶液試料、各種工業材料や製品に含まれるイオン性物質を装置によりイオン成分ごとに分離し、各イオン成分の有無及びその量を測定する装置。								
設置場所	京都市産業技術研究所								
利用状況	年月	稼働日数 (日)	依頼試験・ 依頼分析 (件)	技術指導 (件)	試験設備貸出・利用		受託研究・ 共同研究 (件)	その他 (件)	利用件数 計(件)
					件数(件)	時間(時間)			
	H 25年1月								0
	H 25年2月	9	1	1					2
	H 25年3月	9		2					2
	H 25年4月	4							0
	H 25年5月	12	1	3					4
	H 25年6月	4							0
	H 25年7月	9	3						3
	H 25年8月	6	1	1					2
	H 25年9月	4							0
	H 25年10月	7		1					1
	H 25年11月	7		1					1
H 25年12月	7		1					1	
利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> 更新前の機器は、結果の分析波形(クロマトグラム)がレコーダーチャートによる出力のみのため、分析終了後、手計算する必要があり、分析毎に定量値を求めることができなかった。しかし、新規機器ではコンピューター化されているため、クロマトグラムだけでなく、分析結果も分析毎に確認でき、その変動度合いも数値として確認できる。そのため、分析の追加が必要か否かが分析毎に判断しやすくなった。 								
研究開発事例等	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ「靱皮繊維の水熱処理に伴う化学的変化」 近年、ポリ乳酸などのバイオプラスチックが注目されているが、機械的強度が低いため、ケナフなどの天然繊維の靱皮繊維をフィラーとして複合し物性の改善が検討されている。繊維強化プラスチックの成形過程において、ポリマーの加水分解、金属金型の腐食、臭いの発生などの課題点もある。これらの原因として靱皮繊維に含有する水分により局所的な水熱反応場が形成され、水熱反応により溶出した成分が影響したと予想される。そのため、ケナフなどの靱皮繊維の水熱処理に伴う挙動と繊維構造に関する基本的な知見を得る必要があった。そこで、各種分析技術(イオンクロマトグラフ法など)を利用し、水熱処理に伴う溶出成分及び水熱処理前後の繊維構造の変化について検討している。 								
補助事業概要の広報資料	http://ringring-keirin.jp/shinsei/document/list/kikai/h24/pdf/24-032koho.pdf								